

第3回策定会議で提出いただいたご意見一覧

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
1	10	植田委員	意見	基本施策が「地域産業」という言葉を使っているので、新施策の文言も「区内産業」ではなく、「地域産業」に統一しても良いのではないかと。
2	10	植田委員	意見	目指す姿として、区内の産業の活性化と特色あるまちづくりの中心となる魅力ある商店街の形成となっているが、なぜ中小企業なのか、商店街なのかということの説明が必要である。またこれから先の10年を考えたときに、新たな産業振興という視点もあってもいいのではないかと。これから10年は産業構造が変わると思われるので。
5	10	植田委員	意見	「ことみせ」の発送部数を成果とする発言があったが、発行部数よりも、それがどのように活用されたのか（利用されているのか）という点の方が成果ではないのか。
6	10	植田委員	意見	商店街の加入しない理由というデータはあったが、江東区での加入率はどのくらいなのか？加入しない理由もそうなのか？もし同じような理由の傾向であるとしたら、高齢化も進んでいることと合わせると、商店街を活性化し、まちづくりの拠点にするということの大前提が崩れてしまうのではないかと。江東区としてこのことについてどのような取組をしてどのような現状にあるのかということをお大前提として、新たな視点での取組を検討することが必要ではないかと。
7	10	植田委員	意見	取組方針1について。区内にある大学や高校との連携という視点があってもいいのではないかと。新しい技術の開発やアイデアの開発を共にしていくという取組も有効であると思う。
8	10	植田委員	意見	取組方針3について。まずは総合支援資金融資事業の成果の検証をした上で、より効果的な運用を行うという視点でも取組方針にすべきである。
9	10	植田委員	意見	取組方針4について。取組内容が商店街づくりに留まっている。しかも、高齢化し加入率も低くなっているという商店街の問題がそのままにされた状態で商店街ありきの取組方針となっている。これではここに描かれていることを実現できるのか不安である。目指す姿にあるように、最終的には活性化した商店街によるまちづくりまで行くことを目指すのであれば、もう少し取り組むべき内容は違うのではないかと。
10	10	植田委員	意見	この項目は「地域産業の育成」となっている。その目的は「区民の力で築く元気に輝くまち」を作るためのこと、という大前提での取組ということをお念頭に置くべきである。単なる産業振興ではなく、まちづくりのための地域産業の育成であることを前提として、現状の課題を克服し、これから10年の中での社会構造や産業構造が変化する中で、まず何から取り組まなければいけないのかということをお考えていくべきではないかと。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
11	10	植田委員	意見	なぜ中小企業なのか、なぜ商店街なのか、なぜ行政がこの分野に税金を投入しなければいけないのかということをしきりと説明できるようにしておかなければいけない。
12	10	植田委員	意見	地域産業の育成ということは、国も都も様々な施策を打ち出している。なぜ区が行うのか、区はどの分野を行うのかということを確認しておくべきである。
13	10	吉武委員	意見	概ね必要な要素が盛り込まれていると思うが、全体的に従来の発想や施策の延長という印象が拭えない。中小企業に優れた人材を集めるためには、人事処遇制度が一定程度整っており、仕事にやり甲斐があり成長が期待できることなどが不可欠な要素である。そのためには、個々の企業が産み出す付加価値を高める必要があり、それらに対して区ができることは何かという発想で整理することが望ましい。また、創業支援においては、「エコシステム」が重要との指摘がなされている。個々の会社を支援することも必要だが、江東区全体に「創業を支えるエコシステムをつくりだす」ことが大切。また、中小企業、創業支援、商店街振興のいずれにおいても、「ネットワーク」は重要なキーワードだと思う。
18	10	森委員	意見	取組方針1.にある「経営力競争力の強化」が実際に図られたかどうかを評価できる定量的な指標（例えば収益力等）の採用は考えられないでしょうか。23区での江東区の相対的位置付けが見えると産業の活性度合いも分かると思います。
19	10	森委員	意見	取組方針1について。々の企業を支援するだけでなく、それぞれの持つ経営資源を融通し合うことで新しい価値を生み出す「オープンイノベーション」の機会を行政として提供していくことも可能だと思います。具体的には、ビジネスマッチングのイベントやWEB上のプラットフォーム等が考えられますが、今世の中にある仕組みを紹介していただくだけでも十分な価値があると考えます。
20	10	森委員	意見	取組方針2について。【目指す姿】で謳っている「多様な人材がやりがいを持って生き生きと働いて」という理想に向けての施策が、取組方針の記述内容からは十分には見えてきません。勤労者の能力開発キャリア開発、処遇、働きがいといった点で、企業にどのような支援策が打てるのか、ご検討いただきたいと思います。
21	10	森委員	意見	取組方針3について。創業支援にあたって、取組方針1.で意見を述べたオープンイノベーションの視点が必要だと思います。
26	10	草場委員	意見	取組方針2について。「保育園就職フェア」のように「中小企業後継者フェア」を実施して促進、スピード化を図ってはどうか。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
36	10	内海委員	意見	取組方針3について。会議での意見補足：産業会館等区施設、空き店舗、空き家を有効活用した創業希望者の拠点、支援策として、日常的に利用、交流、情報収集できるコワーキングスペースやシェアオフィスを設けてはどうか。
37	10	内海委員	意見	取組方針4について。各商店街のカラーを打ち出し、一商店街に留まらない「商店街巡り」等回遊性を持たせた事業、「プレミアム商品券」を各商店街イベントで活用して集客、かつその商店街で利用してもらえるような地産地消的な仕掛けも必要ではないか。
38	10	内海委員	意見	取組方針4について。江東区の各商店街には、空き店舗を活用した、日替わり週替わりで創業希望者が営業、地域団体が活動、発表できる、日常的に子育て世帯や高齢者が集まる場所が必ずある！というような統一感を持たせてはどうか。
39	10	内海委員	意見	「銭湯」も地域コミュニティ、区の情報発信基地であると思う。 「銭湯マップ」を活用した各銭湯を巡るスタンプラリー、マラソンランナーへの利用促進、外国人旅行者に対する足浴サービス、利用に応じたポイントによる特典、割引の導入等を行って利用者を増やしてはどうか。また銭湯利用に留まらず、食事も併せて楽しんでもらえるよう、銭湯から近隣の飲食店、商店街利用を促す周辺マップを作成、特典を付ける等、更なる魅力や継続利用を促進、相乗効果による地域発展につなげてはどうか。
40	11	植田委員	意見	地域コミュニティは何をさしているのか。定義を明確にする必要がある。なぜ地域だけではないのか、なぜコミュニティだけではないのか。取組方針のところでは、地域やコミュニティという言葉が多用されているので、言葉の定義をきちんとすべきである。
41	11	植田委員	意見	何をどのように活性化するのが、取組方針の中から分かるとよい。
42	11	植田委員	意見	指標1について。なぜ、世帯数にしたのか。全体の個数が増えれば率も上がるのは分かるが、データ集で示されている数値はそれだけが要因なのか。なぜ加入率が増えないのかということの理由は区として把握しているのか。加入率を上げるためにこれまで何に取組、どのくらい成果を上げているのかということを検証した上で、今後の取組を考える必要がある。
43	11	植田委員	意見	現状として町会や自治体への加入率が下がり続けている現状をどのように捉えているのか。その理由やこれまでの取組も成果を検証した上で、今後の取組方針を考える必要がある。
44	11	植田委員	意見	取組方針1について。多様なコミュニティ活動ということ想定していることはよいと思う。その意味で、指標が町会、自治会加入世帯数ということに違和感を感じる。町会や自治会を前提とするのではない、新たな地域の中でのつながりを想定すべきではないか。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
45	11	植田委員	意見	取組方針2について。地区集会所の改築や管理などが事業となっているが、現状として地区集会所がどのように、そしてどのくらい利用されているのか。今後は施設面だけではない、つながりづくりへの支援や環境整備という発想も必要ではないか。施設の改修にはその後の維持管理の予算も加算でくるので。
46	11	植田委員	意見	取組方針3について。交流と共生はかなり次元の違うことである。交流から共生に移行するためのステップをどのように考えているのか。現在記述されているのはイベントが中心で、あくまで交流のレベルである。指標も参加者数となっている。その場合、文言に「共生」まで入ると共生に至る部分の内容も取組の中に記述する必要がある。そしてもしそこまでするのであれば、指標も考える必要がある。その意味で、現在の取組内容であれば、交流にとどめておくべきだと思う。しかし、10年というスパンを考えると交流だけでは遅れてしまうので、共生という視点も必要。その意味では、共生に至るステップを取組の内容に記述しておく必要がある。
47	11	植田委員	意見	現状でもそうですし、これから10年先を考えると、町会や自治会に関係ない人とのつながりが多くなり、そのことが大きな領域を占めると思う。そうなった時に、区はどのようなコミュニティを作ること、どのように関わっていくのかという発想で考える必要があると思う。
48	11	植田委員	意見	地域のつながりを作る場合に、全てのことが通う学校を核に考えるという視点も重要だと思う。新たな施設を建てるとか改修することは必要なくて、既存の学校という場の機能を拡大し、それを担う人材を育成し、配置してつながりの拠点としていくという発想も入れてはどうでしょう。その視点として、地域学校協働本部という施策が重要なポイントとなると考える。
49	11	植田委員	意見	これからは国際化の視点も出てくるので、多言語対策や宗教的なことへの配慮なども視点としては必要ではないか。
51	11	吉武委員	意見	取組方針の3の中に、外国人が含まれているが、行政を含めて地域全体で在留外国人を本気で支えないと、日本に外国人を受け入れるメリットよりも様々な問題の方が大きくなる可能性がある。項を一つ立ててでも、この問題を明記すべき。
53	11	三宅委員	意見	多文化共生社会は、外国人と区民がお互いの言語文化生活様式などを共有できる場として、一過性のイベントではなく常時提供する事業を検討していただきたい。
54	11	森委員	意見	町会自治会加入世帯について、「数」に加えて「率」も必要だと思います。
55	11	森委員	意見	第四項について。防災や子育てに加え、防犯、高齢者の自立支援見守り、近隣での助け合いといった点で、地域コミュニティに寄せられる期待はますます大きくなっていると感じています。共助機能としての地域コミュニティの活性化が社会的な要請であることを強調することで、区民意識の向上に資するものと考えます。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
59	11	草場委員	意見	取組方針1について。コミュニティの中心は町会であり、町会役員の高齢化に伴いその組織の活動が形骸化している。後継者の養成のため、町会と併せてこども会活動のサポートを行政としてお願いしたい。
60	11	草場委員	意見	取組方針3について。町会の区割りが区民の生活圏と大幅に乖離している。当面、生活圏エリア内の町会同士の連携促進に取り組んでいただきたい。
64	11	内海委員	意見	指標1について。ボランティア団体人数が23区トップレベルであることを江東区、区民の特徴として打ち出し、参加への促進、アピールにつなげてはどうか。
65	11	内海委員	意見	指標1について。ご承知と思うが、教育委員会による「幼児家庭教育学級」、男女共同参画推進センターにおける「パルカレッジ」にて団体活動を始めるきっかけ作りは暫くされているが、その後の活動方法等の知識やサポートが得られず、活動及びその継続に繋がりにくいまま放置され、気運を逃しているように思う。早期の市民活動推進センター設立による改善、拡大、活発化を期待したい。
67	11	内海委員	意見	指標2について。また各施設情報は一覧で、部屋の内容に留まっており、健常者、強く利用を希望する区民向けにしかかかっていないように思う。何階建てか、エレベーターの有無、トイレの仕様等、子連れや障害者に必要な情報も掲載し、利用促進に繋げるべきではないか。各施設改修に当たっても、誰もが利用しやすい統一した整備を行ってほしい。
69	11	内海委員	意見	指標3について。世代、国籍、障害の有無、在勤、在学者の垣根を超えた大会、世界大会も実施してはどうか。
70	12	植田委員	意見	ダイバーシティという言葉はとてもインパクトがあるのでよいと思うが、きちんとした定義をしておかなければ、一人一人が勝手な解釈をしてしまうので、危険な側面もある。江東区というダイバーシティ社会とはどのような社会なのかということを明確に説明しておくことが必要である。
71	12	植田委員	意見	取組方針で示されている内容を実行することで、ここで描かれている目指す姿がどのように実現されるのかというつながりがよくわからない。特に4番。
72	12	植田委員	意見	指標2について。区の審議会等への女性の参画率を10年間も指標として使うのか。少々時代遅れな感がある。
73	12	植田委員	意見	取組方針2について。男女共同参画の推進ということが重要であるが、これから先の10年もこれを掲げるのか。
74	12	植田委員	意見	取組方針3について。ワークライフバランスという視点が入ったことはよいと思う。しかし、ここで目指すことがダイバーシティ社会の実現のためのワークライフバランスなので、その視点からの取組内容にする必要がある。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
75	12	植田委員	意見	取組方針4について。福祉や安全安心という部分での取組であれば、他の項目においた方が違和感がないと思う。しかし、ダイバーシティ社会ということにおいて重要な視点であることなので、その視点からのDVの取組という観点で取組内容を記述する必要がある。
77	12	吉武委員	意見	取組方針は、1で全体を包括し、かつ土台となるテーマとして「人権を尊重し、多様性を重視する意識の醸成」を記述したらどうか。本施策は人権に係る問題であると同時に多様性を重視した社会や組織こそ持続可能な競争力を持ちうるという考えに基づき構想されるべきである。また、個人家庭で取り組む課題、企業団体が取り組む課題、地域社会で取り組む課題など、取り組み主体を意識した上で、区が何を為すべきか、という考え方に基づき整理することが望ましい。
79	12	森委員	意見	タイトルにおいて「ダイバーシティ」を謳ったことには大いに賛同致します。せっかくですので、「指標の説明」にあるような「性別、年齢、国政、価値観、生き方など様々な違いを認め合い、誰もが尊重され、暮らしやすいまち」といった理念を「目指す姿」に織り込むと、よりメッセージ性が高まると思います。
80	12	森委員	意見	第1項について。冒頭からこれまでの取り組みについて述べていながら、その結果について言及せず、「（それとは別の）課題が顕在化しています」で締めくくっており、論旨が通っていないと思います。例えば、「（2行目後半）相談体制の確立等に取り組んできましたが、十分な成果を上げるには至っていません。また一方では、性的少数者（性的マイノリティ）や外国人等が対象となる新たな人権課題が顕在化しています。」としてはいかがでしょうか。
81	12	森委員	意見	取組方針1について。本文書き出しの「年齢、性別、国籍、障害の有無等によるあらゆる偏見や差別をなくし、」について、年齢、性別等の表層部分（属性）だけではなく、深層部分である価値観、生き方なども記述してはいかがでしょうか。（既に「指標の説明」にはそのように書かれています）
82	12	森委員	意見	取組方針1について。施策6（学校教育の充実）でも意見を提出しましたが、寛容な心をライフステージの早期に育むことが、いじめや差別、ひいては社会的分断を解消していく大きな力になると考えます。したがって、学校における「多様性に関する教育」「ダイバーシティ教育」をここでも明記されてはいかがでしょうか。
85	12	内海委員	意見	取組方針2について。「男女が平等だと思える区民の割合」16.8%について。日本全体としても男女雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法が制定されて久しいが、世界の情勢に遅れをとったまま改善が進んでいない。区のセンターが設立されてからも久しいが、江東区が日本をリードする位の意気込みで大胆に挑戦し、変化を起こしてほしい。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
86	12	内海委員	意見	取組方針2について。「女性役員が多い企業が男性役員の多い企業の利益率を上回っている。男性だけでやっていくのではなく、女性が色々な視点で点検しながら、社会あるいは組織を変えていく必要があるのに、それを怠ってきたのが日本のこの30年の停滞ではないか。社会が変化してきているのに男性が変わりきれていない。これからの生き方や男性の意識をどう作っていくのかきちんと考える段階に入っているのでは」（京都大学名誉教授 ジェンダー論研究 伊藤公雄先生）という見解に危機感を持ち、まずは行政や企業が認識を改め展望、進めていった先に社会の発展があり持続可能な社会が実現するよう思う。
88	12	内海委員	意見	取組方針4について。DVの未然防止について。加害者となりやすい男性に対する周知は十分されているか。現在の紙媒体だけでなくWeb上で、質問に答えていき自分が該当していないかの状況確認や気づきを促し、DVについて学ぶ方法も考えてはどうか。
89	12	内海委員	意見	「区の施策、推進センターの認知度」が30～40%となっているが、一方的な情報提供、啓発、センター施設内での一部区民の活動、講座受講に留まらず、まずは広く子供から大人、在勤、在学者まで意見を聞き、双方向性を持たせ、あらゆる世代、立場の違いについて理解を深め、広め、学び、発言できる機会を幅広くもっと増やし、大きな場を設ける等、スピード化を図り、区民の意識から行動、区全体、社会の変化にまで至るよう導いてこそ役割を果たすことになるのではないかと。その為には、限界があり限定されてしまっている主に紙ベースでの取組み、啓発を脱し、まずはホームページを設け、率先してICTを十分に生かす生かされるべき分野と思う。いじめ相談等もライン利用によって促進されているのを見習ってはどうか。
90	12	内海委員	意見	人権という心、生命、日々の生活、長い人生に関わる分野にも関わらず、体制、意識、意欲自体が他の事業に遅れをとっていないか。 大きな幅広い課題を抱え、改善が期待される分野ながらも、残念ながら前長期計画の延長にしか感じられず、このままではまた大きな改善、発展もなく、十分に図られないまま他人事で終わってしまうように感じる。 10年後、今の子供たちが成長、社会に出ても、今と同じような状況であることは耐え難く、子供たちに申し訳ない。今の大人たちが責任、勇気を持って変えていくべきと思う。
92	13	植田委員	意見	代表指標について。学習する場は多様である。ここでいう「学習や講座、地域の集まりなど」という例示は必要か。これからは講座や教室だけではない、多様な学びの環境ということが想定される。そのことをきちんと踏まええられる指標にすべきではないか。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
93	13	植田委員	意見	指標2, 3について。図書館だけがこれからの学習の場ではないと思う。そのような多様な場がこれから想定される時に、どうするのか。ただ、区として図書館を充実させるということを重点にするのであれば、図書館に関わる項目が必要だとは思うが、それが来館者でよいのか。同じ人が何度も利用ということでは不十分であると思う。図書館を〇〇回利用している区民の割合などという視点もあるかと思う。
94	13	植田委員	意見	取組方針1について。生涯学習の場は文化センターだけでないと思う。また様々な講座だけではない。生涯学習は私的な領域でもあるので、どこまで区が関わり、何をすることが区の役割なのかという視点での重点化が必要ではないか。例えば、生涯学習や何らかの学びをしていない人の啓発活動ということも区の役割だと思う。
95	13	植田委員	意見	取組方針2について。図書館の充実において、図書館の多機能化ということや他の区内にある文化関係の施設との統合やネットワーク化など新たな視点での充実を考えていくことが重要である。
96	13	植田委員	意見	生涯学習で学ぶことと、学んだことを生かしていくという両側面があると思う。学んだことを生かしていくという場として、学校との関わりや学校への支援活動ということの視点で考えてもいいのではないか。そのことが、学校と地域とのつながりを生み、地域の中の学校となり、学校を核として地域づくりにもつながっていく。そのために、地域学校協働本部やコミュニティスクールの推進と関係づけて進めていくことを期待したい。
97	13	植田委員	意見	全体的に、文化センターや図書館など、既存の施設や既存の取組を前提とした内容になっている点が気になる。もう少し、10年というスパンで、どのような学びの場づくりが必要なのかという視点から考えて欲しい。
98	13	吉武委員	意見	目指す姿か取組方針の最初で、生涯学習がなぜ重要なのか、人生100年時代といわれる状況における生涯学習の重要性について、要点を述べた方が良い。生涯学習にとって図書館は極めて有効な施設であり、地域や大学で図書館の機能を見直し、ハードソフトの両面で充実させている例は多い。それらの考え方を取り入れ、記載内容の見直しを含めて、よりインパクトのある施策として整理してほしい。AI時代にこそ読書が大切といわれている。子どもの頃から読書習慣を身につけさせる、そのことに先進的に取り組む自治体という考えを強く打ち出したらどうか。
114	13	内海委員	意見	取組方針1について。行政、区民ともに今後は、長期的な展望、あらゆる協働に向けた地方行政、区民自治等についても学ぶ機会、学習の場が必要ではないか。
115	13	内海委員	意見	取組方針2について。「子育て情報ポータルサイト」にも図書館及びイベント、対象別おすすめ本等の情報が掲載されていると、利用のきっかけ、促進に繋がるように思う。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
116	13	内海委員	意見	取組方針2について。スペースが限られる図書館ではあるが、まずは定期的に文化芸術活動団体による出前演奏等が行われ、利用のきっかけ、継続、文化的相乗効果が生まれることを期待したい。
117	13	内海委員	意見	取組方針2について。大学図書館連携事業における区民の認知度、利用状況について。 世代を超えた「本の魅力や読書の楽しさに触れる」、図書館利用、江東区にある大学を知るきっかけ作り、大学大学生との交流等が考えられ、更なる周知を図り発展させられる事業のように思う。 各大学図書館をめぐるツアーを実施したり、長く暑い夏休みに親子等で大学図書館を訪れ過ごしたり、宿題に役立てたりすることも一つの選択肢になるような周知、利用促進の方法もあるのではないか。
120	14	植田委員	意見	この領域は、私的な嗜好と関わる部分であり、また民間企業との関係も関わる部分である。区が何をやるのかという重点化した内容とすべきだと思う。区が取り組むべきターゲットは明確にして、なぜ区が税金を投入してこのような取組をするのかという視点や根拠を明確にしながら、具体的な取組を記述していく必要がある。例えば、高齢者や障害者、社会経済的に困窮している世帯など、区がやるべきことの意味や根拠、そして目的を明確にした施策を打ち出して欲しい。
121	14	吉武委員	意見	多くのオリパラ競技会場を有する江東区にしては、取組方針があっさりし過ぎていないか。「スポーツ」の意味については、国のレベルでも教育研究のレベルでも種々論じられているので、それらを参考にしつつ、取組方針の最初で一つ項を起こして、区民にとってのスポーツの意味を明記し、2つ目でスポーツ活動の促進、3つ目で環境の整備という順に整理してみたらどうか。スポーツは、身体的な健康づくりという面だけでなく、心の健康や成長、活力ある地域づくりにも活かされるべきであり、スポーツを文化と捉えることもできる。それらを踏まえた記述を検討してほしい。
124	14	森委員	意見	なぜスポーツをするのか、スポーツによって何が得られるのか（スポーツの効用）、という視点を【目指す姿】【現状と課題】【取組方針】等に盛り込む必要があると考えます。チャレンジ精神の涵養、達成による成長実感、チームワークの習得、そして何よりも心身の健康増進（これは施策17に関連します）が挙げられると考えますので、ご検討いただければと思います。
129	14	内海委員	意見	取組方針2について。区の施設やオリンピック会場となる施設に蓄電式の自転車等を常設してはどうか。老若男女訪れた人が漕ぐことで運動促進、節約による環境意識が高まり、また施設同士で蓄電量や距離（地球を何周できるか等）を競い合い、月ごとに公表すればより楽しく、オリパラへの気分も盛り上がり、区のアピール、レガシーにも繋がるように思う。
130	15	植田委員	意見	江東区には歴史や文化に関する資源が豊富にある。その強みを生かして欲しい。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
131	15	植田委員	意見	継承という点は人材育成が重要である。文面からは、地域での取組や成人を対象にした取組などが中心に感じる。しかし、人材育成という点では、子どもたちを巻き込むことが重要である。地域での子供会や自主的なサークルなども有効ではあるが、もう少し継続的、持続的な取組していくためにも、学校との連携も視野に入れていってはどうか。地域学校協働本部やコミュニティスクールという取組を使うことで地域の伝統文化等の担い手の育成や継承が成功しているという事例も多くある。そのような視点も踏まえて取組を考えて欲しい。
133	15	内海委員	意見	取組方針3について。江戸時代にタイムスリップ！できる江東区として、時代衣装、旅装束での観光、歴史を味わってもらおう等の工夫、付加価値をつけていってはどうか。
136	15	三宅委員	意見	区の強みとして「歴史」「産業」「オリンピック（緑水辺）」の特徴を持つ3つのエリアがあることが挙げられる。この3つのエリアがあることを協調することとそれぞれの特徴を生かした観光振興を行うことが必要であると考える。
138	15	森委員	意見	歴史や伝統芸術文化などを区民が自ら学び、自ら継承の担い手となるように思えるような、琴線に触れるメッセージを【目指す姿】【現状と課題】【取組方針】等の中に織り込んでいただければと思います。

第4回策定会議で提出いただいたご意見一覧

No	施策No	委員名	種別	内容(転記)
5	1	植田委員	意見	学校の校庭芝生化とあるが、現状としてはほとんどできていないという状況の中で、現状の説明として入れるのはどうか。
6	1	植田委員	意見	水辺の環境整備にしても、屋上や壁面の緑化についても、維持管理経費のかかるものである。その当たりをどのくらい想定しながら、これらの事業の展開を考えているのか。持続可能な仕組みとなるような取組にして欲しい。
9	1	森委員	意見	CIG(CITY IN THE GREEN)は江東区ならではの取り組みですが、人口に膾炙する言葉となっていないのはとても残念。重要なステークホルダーである区民とのコミュニケーションがうまくいっていないのではという印象を持ちました。区民の日常活動を促進するためにも、理念やビジョンを表す共通言語が必要であり、CIG浸透のための施策を盛り込んでいただくことを希望します。(会議でも述べましたが、改めて記しました)
10	1	森委員	意見	【取組方針】も含め「質の高い緑」という言葉が随所に見られるなか、「質の高さ」がどのように担保されるかは記述されています(「街路樹の適切な維持管理や更新」等)が、何をもち「質が高い」かが論じられていないように思います。
18	2	植田委員	意見	取組方針1について。環境教育学習という中に、えこっくるなどの区の施設での取組に留まるのではなく、学校での環境教育などとも連携した展開をもう少し明確に打ち出して欲しい。そうすれば、えこっくるに来る子だけでなく、区内の子どもたち全員が意識して学ぶことができると思う。
19	2	植田委員	意見	取組方針3について。環境汚染の防止とあるが、取組内容は意識啓発に留まっているように思う。これらの取組で指標としている環境基準達成の割合が達成できるのか。取組方針の文面を変えるか、取組内容をもう少し防止に向けた具体的な取組の内容にするのかを検討し、取組方針と取組内容と指標の整合性をとる必要がある。
20	2	植田委員	意見	区内施設での取組が中心となっているように見受けられる。もっと学校教育との連携の視点を持った施策の展開を期待したい。
23	2	内海委員	意見	取組方針1について。区施設やオリンピック会場で、歩行による床発電を利用した案内矢印、案内板の点灯、遊具を作動させる等により、節電、環境意識向上、区のアピールに繋がられるのではないかと。
24	2	内海委員	意見	取組方針4について。南砂町駅西口駐輪場では雨水タンクが節水、防災用水に利用されているが、今後の増設、民間、マンション、個人への設置助成等は検討、予定されているか。

No	施策No	委員名	種別	内容(転記)
26	2	内海委員	意見	アダプトプログラム事業の活動頻度は、週1、月1、年数回と選択肢、柔軟性があり活動開始や継続がしやすく、他の事業も見習うと良いように思う。
35	3	植田委員	意見	SDGsに触れられたのはよいと思う。現状として、区ではSDGsに対してどのような考えをもち、どのようなスタンスで、どのような取組をしているのか、していないのかということに触れる必要があるのではないかと。
36	3	植田委員	意見	SDGsという視点は、これから10年の中で、世界的にも重要な視点になってくると思う。その内容について、区としてどのようなスタンスをとり、何に取り組むのか(組まないのかも含めて)という具体的なビジョンと、施策の具体化を期待したい。単に文章として触れるだけでは弱いように思う。SDGsで示されるゴールや目標などに触れながら、全体を整理するという視点もあるのではないかと。
37	3	植田委員	意見	ゴミの問題は、夢の島を有する区としては、区の特色として前面に押し出してよい視点であると思う。夢の島を持つ区であるが故に、今でも最先端の取組をしているという自負を持って、もっと積極的な活動の展開と先導的な取組を示していく姿勢を示して欲しい。
38	3	植田委員	意見	ゴミ問題については、地域学習の一つとして小学校の社会科で子どもたちは学んでいる。そのような学校教育との連携を図りながら、地域全体で循環型地域社会の実現を目指す。そのような地域づくりをするという視点とそのための具体的な施策の展開を示して欲しい。
39	3	森委員	意見	江東区における取り組みですので、タイトルを「循環型地域社会の形成」とした方がしっくりくると思います。
40	3	森委員	意見	第7項について。「今後も人口増加や高齢化の進展、単身世帯(高齢若年)外国人住民の増加が見込まれる中、」以降の記述については、やや言葉不足のように思います。人口増はともかくとして、高齢化の進展や単身世帯外国人住民の増加がなぜ新たな施策の必要性を喚起するのか、当事者の方々が読んで納得感を得られる書き方にすべきと思います。

No	施策No	委員名	種別	内容(転記)
68	22	植田委員	意見	レガシーという言葉は、ソフトとハードの両面をさすのは分かるが、ここではハード、つまり施設面が中心になることを考えると、「施設設備」や跡地などという言葉にした方がはっきりとするのではないか。
69	22	植田委員	意見	この施策は、オリンピックパラリンピック後を見据えた展望を示す必要があり、とても重要な施策であると思う。もう少し明確なビジョンを具体的に示し、オリンピックパラリンピック後に、そのレガシーを活用したどのようなまちづくりを進めていくのかというメッセージを明確に打ち出して欲しい。
70	22	植田委員	意見	都市計画マスタープランとの整合性はどうなっているのか。改訂を視野に入れているということであれば、その改訂の内容ときちんと整合性を持たせておかなければいけないのではないか。その当たりが説明ではよく分からなかった。また都市計画マスタープランは他の施策とも関わる部分も多々あるので、取組方針1の中に、都市計画マスタープラン改定事業が含まれているので、その当たりの関係をきちんと整理して他の施策との整合性や関係性を整理して欲しい。
71	22	植田委員	意見	まちづくりという点では、江東区の中にある内陸部と臨海部の違いや格差のようなものも視野に入れた視点も必要ではないか。公平性を担保しつつも、重点化した施策の展開が必要ではないか。
103	22	内海委員	意見	取組方針3について。「屋外広告物許可事業」について、「道路占用許可」を受けているものか区民でも判別できるような表示、シール等は貼られているか。
104	22	内海委員	意見	取組方針3について。歩道を狭めて歩行者の通行を妨げている看板やのぼり旗があるように思うが、巡回、注意喚起等はどうに行われているか。
106	22	内海委員	意見	取組方針4について。区役所には「誰でもトイレ」が12階にしかなく他階にもあるべきと思うが、障害のある職員、来庁舎等にとって不便はないのか。また、庁舎案内図に1階のフロア及びトイレの記載がされていないがなぜか。
95	22	森委員	意見	まちづくりに関して、区の役割には、旗振り役/計画主体/実行主体/支援者等様々な側面があると推測しますが、典型的に立ち位置が整理されていると分かりやすいと思います。
72	23	植田委員	意見	指標2について。申請件数＝住めるようになった人の数になるのか。もしそうでなければ、申請件数よりも、部屋探しができて住めるようになった件数の方が成果として判断できるのではないか。
73	23	植田委員	意見	内容として、良好な住宅の形成と住環境の向上という、施設的なハードと、向上という質的なソフトの面が含まれた政策であると思う。今後、高齢化や単身世帯の増加が予想される中で、福祉的な側面での対応も求められてくるその当たりをどのように視野に入れた取組を考えていくのかは検討する必要がある。

No	施策No	委員名	種別	内容(転記)
76	24	植田委員	意見	取組方針2について。自転車通行空間の整備とあるが、走るためのラインだけ引かれていても、そこに駐停車している車があったり、バス停があったりすると車道にでることになり、安心して運転できないのが実感です。整備の中には、駐停車禁止にするとか、車の運転ルールの徹底やマナーの向上も含めた制度設計にしてほしい。
77	24	植田委員	意見	道路、交通網の整備という点では、区だけで完結する内容でないものが多々ある。区として何をするのかを明確にしたビジョンの提示と具体的な取組内容の記述が必要である。
78	24	植田委員	意見	区だけでできることではなく、都や国と連携や協議しながら進めなければならない部分もあるので、その当たりの視点も入れていくべきではないか。
108	24	内海委員	意見	取組方針2について。放置自転車対策に伴う費用、内訳について見える化、周知することで、意識が高まり抑止力になるのではないかと。
110	24	内海委員	意見	取組方針2について。自転車販売店から販売時にルールブック等を配布協力してもらい、ルール、マナーの徹底、事故防止に繋げてはどうか。
96	24	森委員	意見	地下鉄8号線延伸については、交通網の利便性を高める観点のみならず、「南北で分断されている」と揶揄されることも多い江東区を文字通りつなぎ、人的交流を活発にするという大義を訴えてもよいと思います。(会議でも述べましたが、改めて記しました)
79	25	植田委員	意見	取組方針3について。この施策がハード面に焦点化されているのであれば、表現として「災害対応力の向上」よりは、「備蓄物資及び資材の整備」という表現の方がよいのではないかと。
80	25	植田委員	意見	取組方針3について。備蓄品の中身として、今後は、グローバル化も進み、地域住民といっても多様な民族、宗教をもった人たちが避難所に来ることが想定される。そのことを視野に入れた環境整備や備蓄品の整備という視点も必要ではないかと。
111	25	内海委員	意見	指標2について。実施された雨水貯留施設浸透施設の設置による効果がどれ位もたらされるのか、現状と最低限必要な設置数を見る化、目標に設定することで、設置への促進がされるのではないかと。
113	25	内海委員	意見	取組方針2について。実施された雨水貯留施設浸透施設の設置による効果がどれ位もたらされるのか、現状と最低限必要な設置数を見る化、目標に設定することで、設置への促進がされるのではないかと。
83	26	植田委員	意見	取組方針1について。防災意識の向上という点は重要である。これからはグローバル化が進む中で、外国人の方をどのように取り込みながら地域全体の防災意識を向上させるのかという視点も必要である。日本人とは異なる感覚や習慣を持っている人たちであることを想定した啓発活動や、多言語対応の広報及び情報伝達手段の整備が必要である。

No	施策No	委員名	種別	内容(転記)
85	26	植田委員	意見	東日本大震災の際には、コミュニティスクールに指定されていた学校ほど、避難所の立ち上げや運営がスムーズに行われ、教職員と地域住民の役割分担も明確であったという報告がある。その意味で、学校という場をうまく活用した体制整備の視点も盛り込んでいくことが、高齢化などの課題に対応する一つの手段だと思う。子どもたちやその保護者を巻き込みながら、日頃からの地域の中での基盤づくりを進めていく必要がある。その意味で、地域学校協働活動という視点も考えて欲しい。
86	26	植田委員	意見	意識啓発や体制の強化という部分では、学校教育の中でも教育活動の中で行っているため、そのこととの連携及び、その活動を地域にも拡大するという視点での施策の広がりを期待したい。
97	26	森委員	意見	取組方針1について。区民の防災意識向上に加えて、AEDなど救急救命訓練等により自助力共助力を向上させていくことも重要と考えます。
98	26	森委員	意見	(※施策25の取組方針3.がこちらに移ってくる前提で記載します) 災害時の企業との連携について、既に協定を締結されているとの話を会議で伺いましたが、それについての言及があっても良いと思います。
117	26	吉武委員	意見	一読した限りでは、25がハードの側面を重視した施策、26がソフトの側面を重視した施策になっている。そうであれば、2つの施策をハードとソフトで大きくカテゴリー分けすると同時に、26のソフトについては、東日本大震災をはじめ過去の大規模災害で指摘された課題などを踏まえ、もう少し内容を充実させ、体系的に整理する必要があるのではないかと。地震予知は困難でも、首都圏に甚大な被害をもたらす地震発生切迫性が高まっていることは明らかにされており、そのことを十分に踏まえたソフト対策に知恵を絞る必要があるように思う。
87	27	植田委員	意見	指標2について。区内刑法犯認知件数を指標としているが、これを区がコントロールできるのか。取組としては、防犯意識の醸成と地域防犯力の向上であり、犯罪を減らす取組をする訳ではないのだから、取組の成果をきちんと検証できる指標にすべきではないか。
88	27	植田委員	意見	指標3について。消費者教育に関する講座の実施回数で安全で安心な消費生活の実現が検証できるのか疑問である。消費者センターに相談した結果、問題が解決したとかの方が成果と言えるのではないかと。
89	27	植田委員	意見	防犯意識の醸成や地域防犯力の向上、消費者教育の充実が柱となっていると思うが、それらは全て、防犯意識をもった住民の育成や、賢い消費者の育成(消費者詐欺にかからないとか、問題が発生した際に解決する方策を知っているとか)の育成という人材育成の視点が重要であると思う。その意味で、人材育成や能力開発という視点でもう少し整理したらどうか。
90	27	植田委員	意見	住民といった場合に、成人や高齢者が中心のように見える。消費者教育も消費者センターだけのことではないと思う。これからは、子どもの頃から、防犯意識を醸成し、子どもたち自身も地域住民の一人として地域防犯や防災の担い手となるような取組や、賢い消費者となるための教育が必要である。もう少し、学校教育との連携という視点も入れてはどうか。
116	27	内海委員	意見	アダプトプログラム事業の活動頻度は、週1、月1、年数回と選択肢、柔軟性があり活動開始や継続がしやすく、他の事業も見習うと良いように思う。

第5回策定会議で提出いただいたご意見一覧

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
5	16	植田委員	意見	受診率が指標となっているが、すでに96.4%という高い水準にあり、それを維持するために指標としたということであったが、高い水準にあるということであれば、また取組方針の内容も充実となっているので、量的なものよりも、質的な改善の方を指標にしてもよいのではないか。
6	16	植田委員	意見	外国人も含めた数値で高い受診率であることは評価できることである。そのような量的な充実が図られているのであれば、それを維持することと同時に、内容の充実にシフトしていてもいいのではないか。
7	16	植田委員	意見	これからはより一層、外国人対応が必要ではないか。パンフレット等の多言語化はできているとは思いますが、訪問や相談対応などの多言語化をより一層図り、外国人も安心して子どもを産み、育てることができる街江東というブランド化を図っていてもいいのではないか。現状として高い受診率を誇れるほどの実績があるのであれば、サービスの質的改善を図ることが実現可能性が高まると思う。
8	16	植田委員	意見	支援センター等での取組は充実しているようであれば、そこに来られない人、あるいは受診していない数%への対応もこれからは重要であると思う。その意味ではアウトリーチ的な対応の充実も必要である。そのための体制整備などはどのようにしているのか。今後の取組の質的な充実の手立てを考えるべき時期ではないか。
9	16	植田委員	意見	施策4、5の子育て支援の取組との連続性が重要である。そのような意識はあるようであるが、取組方針の中に、それらとの連続性や関係性があまり読み取れない。そのあたりのつながりをもう少し意識した書き方が必要ではないか。
12	16	内海委員	意見	乳幼児健診時、通知された所要時間と実態に相違があった件について。区立幼稚園で子供を預けての保護者への活動説明時にも同様のことがあり、予定時間か実態のどちらかに調整するよう改善を求めたことがある。保護者や子供達が待たされるような実態が毎回、毎年繰り返し実施されることは望ましくない。他の事業、施設でも同じように計画、実施、報告がされている事がないか確認、見直していただきたい。
14	16	吉武委員	意見	外国人増加が予想される中、外国人とっても出産子育てがしやすい環境であることを明記しておくべきではないか。
17	17	植田委員	意見	健康づくりのための環境整備と保健医療サービス体制の整備という2つの目指す姿があるが、行政として何をするのかという役割を明確にした改革が必要ではないか。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
18	17	植田委員	意見	指標3について。がん検診を受診した区民の割合とは、区のがん検診を受けた人ということか？それとも個人でがん検診を受けた人も含めるのか？意識啓発という点が目的なら個人で受けた人も含めるべきだとは思いますが、区が実施するがん検診の普及を促すことが目的であれば、区のがん検診だけにすべきである。取組方針の記述は、そのあたりの目的があいまいである。
19	17	植田委員	意見	取組方針1について。健康づくりの普及、啓発という点は、施策13、14の健康スポーツや生涯学習の分野と関係する内容となっている。ここでは啓発等が目的であるならば、そのあたりの施策との関係を意識すべきではないか。
20	17	植田委員	意見	取組方針2について。医療体制の充実とあるが、データ上では医療機関数が他の区に比べて少ないというデータ(p.55)となっている。区としてどのような展望を持っているのか。そのあたりの具体的な展望をわかる内容にする必要がある。またどのような分野、領域が具体的に多ならないとか、必要という状況を踏まえての展望の記述も必要である。地域差やニーズに基づく重点化の視点も必要である。
21	17	植田委員	意見	区としての役割を明確にした取り組みが必要である。医療については個人的なニーズもあり、ニーズも多様である。そのような中で、区がどこまで何に対応するのかということの重点化がこれからは求められる。高齢化や単身世帯の増加が江東区でもデータ上では着実に増加しており、これからの重要な課題である。限られた予算の中で、どのように量、質ともに担保した取組とするのかということを考えて、重点化した取り組みを打ち出すことが必要ではないか。あるいは、徹底的に区が面倒を見るということであればそれも一つの特色であるといえるが、財政的な負担も考え、区が何をどのように提供するのかという視点で持続可能で具体的な取り組みの展望を描く必要がある。
26	17	内海委員	意見	取組方針1について。また、自殺者の多い月曜日が休館日となっている区施設について。相談先、リフレッシュできる、自殺を思い留まれる場所として、それ以外を休館日とするのが良いように思うがいかがか。
27	17	内海委員	意見	取組方針1について。「江東区ウォーキングマップ」を利用した「ウォーキング+銭湯コース」や運動や食事、講座（健康、食育等）をセットにする等、付加価値を高めたイベントを実施して健康促進を図ってはどうか。
28	17	内海委員	意見	取組方針2について。健（検）診が適正に実施されているかだけでなく、受診者へ受診環境に対するアンケートを実施して施設の評価に加えたり、未受診者に対しても、受診していない、できない理由を確認、把握、検討して受診率の向上、体制の充実を図ってはどうか。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
29	17	内海委員	意見	取組方針3について。看護師、医師の不足も懸念されており、医療事業者、従事者、就職希望者を支援する「保育士就職フェア」のようなイベントを実施して、医療体制の安定を図ってはどうか。
37	17	森委員	意見	この施策をはじめ、大綱4で述べられているのは、QoL（Quality of Life）の向上を目指すということではないかと考えます。どのレイヤーで取り扱うべきかは分かりませんが、「江東区は、そこ（江東区）に関わる人々のQoL向上を追求します」といったメッセージを打ち出してはいかがでしょうか。
38	17	森委員	意見	健康づくりの取り組みとして、食育推進や睡眠休養等を挙げていますが、もう一つ重要な要素として「運動」が考えられると思います。行動変容を促すためには、運動と健康の関係を根拠立てて論じる必要はありますが、施策14（スポーツを楽しめる環境の充実）と併せて、区民に訴えていくべきと考えます。
40	17	森委員	意見	会議においてご回答いただいた中で、在宅医療についてはデータに現れない実態（かかりつけ医が引き続きケアする等）があるとお話がありましたが、それが区民にしっかりと伝わると、より安心感が醸成されると思います。
41	17	森委員	意見	取組方針1について。区民会議の中で、健康づくりや介護予防の施策の一つとして、「口腔ケア」に区が積極的に取り組むべきとのご意見が出されていたことを申し添えておきます。
42	17	吉武委員	意見	健康づくりにとって「運動」は不可欠な要素であり、医療費削減と健康寿命の延伸を目指して運動による健康づくりに取り組む自治体も多い。スポーツに関する施策と重なる部分もあるが、関連性に配慮しつつ、施策17においても取組方針の中に、運動に関する施策を書き込むべき。
43	18	植田委員	意見	取組方針2について。民泊への対応は喫緊の課題である。区として区内の全体像をどのくらい確実に把握しているのか、そしてどのような管理、監視体制を持っているのか。安全管理上の危機管理とともに、衛生上の管理からも、区民を守るためにももう少し明確なビジョンとそれに基づく、取り組みを具体的に示す必要がある。
44	18	植田委員	意見	予防接種の接種率（法的なもの）は、外国人も含めてどのくらいの接種率なのか。特に外国人の方は、予防接種に対する意識も、また思想信条や宗教的なことも日本人と異なるものがある。そのような方がこれからますます増加することが予想される中で、区としてどのような対応を考えるのか。また、高齢者の増加により、高齢者の予防接種（インフルエンザ等）もこれからは重要な視点となる。このような社会の変化に対応した予防接種への対応策を考えていくべきではないか。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
45	18	植田委員	意見	豊洲市場の移転というものがこれからの江東区にとって衛生管理の視点から重要な視点ではないかと思う。水際での対策を都と連携しながらとっていくためにも、江東港としての明確なビジョンや方向性を示してほしい。
46	18	植田委員	意見	全体的にこれまでの内容を踏襲しているように見える。これからは国際化が進み、人の移動も今までとは異なる広がりを持つはずである。また感染症もより多様化していくことが予測される。そのような危機感を持った対応可能な体制の整備や環境の整備という意識でも計画にしておく必要があるのではないか。具体的に記述するのはむずかしいかもしれないが、そのくらいの危機感を持った記述が必要ではないか。
48	18	森委員	意見	第2項について。「既知の感染症について、区民への普及啓発や発生時の迅速な対応を行って」という文章の「区民への普及啓発」を「区民への予防に関する普及啓発」とした方が良いと思います。
50	19	植田委員	意見	代表指標について。目指す姿は、高齢者が自分らしく自立して生活できる環境整備だと思うが、そのことと、生きがいや幸せを感じることは違う次元であると思う。ここでは、あくまで福祉の推進であり、本人が自分らしく自立して生活できていることを図ることができる指標にした方がよいのではないか。幸せや生きがいを感じるのは個々人がかなり違う思いだと思う。
51	19	植田委員	意見	代表指標について。ここでいう高齢者とは何歳の人か？65歳？これから先もこの人たちが高齢者というカテゴリーでよいのか。またこの施策に含まれる医療、介護、介護予防の対象者としてよいのか。そのあたりの感覚に違和感がある。今までの高齢者福祉対象とこれからの対象は考え直す必要があるのではないか。
53	19	植田委員	意見	取組方針1について。高齢者の活動の場づくり＝シルバー人材センターのようなトーンで書かれていることに違和感がある。もう少し多様な場づくりが必要であると思うし、ここでいう高齢者を65歳と考えた場合、現状とのずれがあるのではないか。またこれから先はもっとこの施策とのずれが起こってくるのではないか。
54	19	植田委員	意見	取組方針1について。地域活動といった場合に、施策13の生涯学習との関係が出てくると思う。そのあたりとの連携の視点が欠けていると思う。もう少し、多元的に地域活動をとらえるべきであり、多様な主体を考えるべきであり、さらに生涯学習との関係を意識すべきであると思う

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
55	19	植田委員	意見	取組方針3について。今の社会構造を前提にした生活の安定的確保という内容のように思える。これからの社会は社会構造、特に情報化などの進展は特に高齢者の生活基盤の確保には考慮すべき事項であると思う。そのような視点での生活の安定の取組方針を記述も加えるべきではないか。
56	19	植田委員	意見	取組方針3について。自分らしく自立して生きていくためには、生活基盤の確保、衣食住の基盤の確保が不可欠である。特に買い物といった場合に、商店街だけでなく、スーパーへの買い物も高齢者にとっては大きな壁となる。足腰が弱った時にいかに買い物ができる安定的な基盤をどう作るのか（交通手段も含めて）。ネットスーパーといっても高齢者には情報機器を扱えない人も多い。これからはSociety 5.0に象徴されるようにより情報機器が社会の中に入ってくる。今よりも扱いやすい状況になるのかもしれないが、そのような中で高齢者への生活基盤の安定的な確保をどのように保障していくのか。そのような視点でも取組方針を示しておく必要があるのではないか。
57	19	植田委員	意見	高齢者のとらえ方、高齢者を取り巻く社会環境の変化が少し狭いし、古いように思う。これからはSociety 5.0に代表されるように、今までのよりも急激な労働環境の変化、社会構造の変化や情報化の進展が予測される。そのような中で高齢者が自分らしく自立して生きていくための環境整備という視点で施策の見直しが必要ではないか。
63	19	草場委員	意見	取組方針2について。地域包括支援センターを地域包括ケアシステムの中核的な期間として地域包括支援センターではなく、区が直接的に関係機関、関係団体との調整を図り取り組まなければ、システム構築の実現は極めて困難と慮します。
64	19	三宅委員	意見	地域包括ケアに取り組んでいくことを強調するために、江東区として特徴ある「目指す姿」を示して欲しい。
65	19	三宅委員	意見	第8項について。江東区の課題として日常生活圏域ごとに高齢化率が大きく異なるなどの課題がある中で、地域に合わせた地域包括ケアを実施している必要があることを強調してはいかがか。
66	19	三宅委員	意見	第6項について。本日の会議でも意見が出たが、今後10年の「社会福祉の推進」として後期高齢者への取り組みを課題として挙げたほうがよいのではないか。
67	19	三宅委員	意見	施策17と施策19の書き分けを明確にしたほうがよいのではないか。 例) 高齢者の健康づくり、介護予防、介護医療連携などは施策19にまとめる。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
68	19	森委員	意見	施策の大綱に入っている「生き生きと」という文言をここでも盛り込むべきと考えます。
71	19	森委員	意見	全般に、多様な高齢者像（年齢も健康度合いも意欲も経済状況も様々であるという現実）に立脚した課題整理と方向性提起をされた方がよろしいかと思います。
76	19	吉武委員	意見	高齢者を65歳以上と定義づける場合、高齢者＝福祉の対象という従来の図式は当てはまらない。一方で人手不足や事業承継の問題を指摘しながら、その片方で高齢者を一括りにして、シルバー人材センターによる支援や「生きがい」などの言葉を用いるのは、人生100年時代と言われる状況において、時代遅れの印象が強い。「高齢者」をどう捉えるのか、区の見識が問われる部分なので、十分に検討を深めた上で、整理し直してほしい。
77	20	植田委員	意見	代表指標について。健常者も含めた区民に障害者が社会参加しやすいまちかどうかを聞くことの妥当性があるのかは疑問である。区民に行くのであれば、障害者への理解や障害者福祉の施策の内容への理解などもう少し聞く内容を変えた方がよいのではないかと。目指す姿が共生社会の実現なので、もう少しその視点が反映できるような、そしてそのための区の取組の成果を図ることができるような指標の設定を考えた方がよいと思う。
78	20	植田委員	意見	障害者の方への取り組みが中心となっている。そのことは重要なことなので、その取り組みの充実が必要である。そのことに加えて、共生社会の実現のためには、健常者の理解や活動も重要である。その推進のための啓発や理解のための取組も取組方針の中に入れていく必要があると思う。
79	20	植田委員	意見	子どもの障害のことも含まれる内容になっているので、学校教育での特別支援教育との関係も視野に入れる必要があるのではないかと。学校と連携し、特別支援学級に通う児童生徒の保護者との連携や教員との連携等の視点も必要ではないか。
80	20	植田委員	意見	学校教育の中での障害への理解などの教育も行われている。そのような取組との連携も視野に入れてもいいのではないかと。子どもたちからの障害への理解は重要なことであり、共生社会を作っていく上での重要な基盤となると思う。
81	20	植田委員	意見	障害者に関わる全ての関係者が連携し、協働しながら取り組む視点として、学校教育との連携も視野に入れた施策の展開を期待したい。
83	20	三宅委員	意見	江東区の特長としてのユニバーサルデザインと関連させた記載をしてはいかがか。 例1) 江東区は障害者が住みやすい街づくりをしている。 例2) ユニバーサルデザインに参加することで障害への理解を社会に広めている。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
86	20	森委員	意見	取組方針1について。福祉教育の推進や啓発広報活動について、共生社会の理念を浸透させていくことはもちろん重要ですが、障害を持つことの意味（どういう制約や困難があるのか）を学び、それぞれ違う障害の特性を正しく理解するための実践的な機会を幅広く提供していくべきと考えます。
87	20	森委員	意見	障害者のかたから必要な情報にアプローチできていないという声を聞くことがあります。公的な制度、就労関連、生活関連商品サービスに至るまで、当事者とその家族支援者の視点に立ち、行政として一歩踏み込んだ情報提供を行っていくべきと考えます。
92	21	植田委員	意見	取組方針1について。包括的な支援体制の構築となっているが、社会福祉協議会の活動をどう見直し（何をどのように変えていくのかなど）、どのような施策の展開をするのかの具体的な内容が見えない。そのあたりの記述が必要ではないか。福祉協議会在りきの考えではなく、もう少し幅広く、多様な主体の連携協働の視点からの包括的な支援体制の構築の全体像を示してほしい。
93	21	植田委員	意見	取組方針2について。資格取得支援などによる新たな介護人材の確保とあるが、その人材を確保する見通しはあるのか。だれをターゲットに取組を展開するのか。
94	21	植田委員	意見	子どもの貧困はこれから大きな課題となる。江東区はどのような状況か。もう少し、福祉の現状に基づいた、対象を明確にした取り組みの展開を具体的に示してほしい。そうして、江東区としての売りや特色を示してほしい。
101	21	草場委員	意見	取組方針1について。包括的な支援体制の構築に向けて、「ボランティアポイント制度」の導入を検討したい。シニア世代を中心とした全世代がボランティアに参加が出来て、積み立てたポイントは自らが必要な時に使うことが出来る。また、高齢者や子育て世代を中心とした全世代がボランティアの支援を受けることが出来る制度であり、他の自治体での現金との交換等はなく、あくまでも「ボランティア」の支え合いに基づく制度。且つ、「シルバー人材センター」「ふれあいサービス」の隙間を埋めるものです。
108	21	三宅委員	意見	施策16～20は直近の課題解決のための取り組みとし、施策21は10年先に実現する江東区として考える理想的な共生社会を実現することを目指す姿とした指標、現状と課題、取組方針を記載してはいかがか。
115	21	吉武委員	意見	施策19（高齢者）、施策20（障害者）との関係において、施策21はどのような位置付けでまとめられたものかがやや不明確な印象を拭えない。高齢者や障害者を含めて、地域のネットワークで福祉を充実させたいという考え方の部分と、貧困や経済的困窮者という別の福祉対象の問題が施策21に含まれているようだが、何を意図した施策か、その目的と考え方がよく伝わるような項目立てを検討してほしい。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
96	実現 I	植田委員	意見	取組目標に、区民が必要とする情報をわかりやすく公開し、とあるので、現状の把握の中に「一日当たりの区ホームページアクセス数」とあるが、それだと量的な拡大を中心にしたものになってしまうので、「必要な情報を得ることができた」とか、「このページが役立ったのか」ということを把握するようなカウンターをつけ、その数を指標にしてはどうか。
97	実現 I	植田委員	意見	オープンデータ数を現状把握にすることはとても刷新的で、よい方向性だと思う。しかし、そのための管理システムや情報セキュリティ対策等の仕組みづくりをしっかりとしなければいけない。その他ありの取組も取組方針の中にいれる必要があると思う。
143	実現 I	内海委員	意見	取組方針 1 について。障害者、子育て世帯、介護世帯、在住外国人は勿論のこと、江東区在勤、在学者、事業者、大学等の視点、意見も活かした協働の在り方、団体活動の促進、連携を実現させ、複雑化、多様化する課題を多角的に早期に解決していけると良いように思う。
144	実現 I	内海委員	意見	取組方針 2 について。どのようなアンケート調査においても、その利用目的及び結果が公表され閲覧可能なものか、行政資料に留まるものなのかを事前に説明し、理解を得た上で行われるよう統一、徹底して、透明化すべきと思うがいかがか。
145	実現 I	内海委員	意見	取組方針 2 について。日々利用する施設において、年に1度のアンケート実施のみでは対応、改善に遅れが生じ、区民アンケートでは対象から外れる項目もあり、効果的な対策が図りにくいという面がある。施設毎に日々の意見集約、改善に繋がられるような工夫、意見箱設置等を徹底、統一したり、利用者、対象者に絞ったアンケートを積極的に実施して、適正化、スピード化を図ると共に、施設職員、運営管理委託先、指定管理者についての評価にも含め、改善に繋げるべきと思うがどうか。
146	実現 I	内海委員	意見	取組方針 2 について。長期計画にも関わる区民アンケート等の内容についても外部評価を入れてはどうか。庁内、部課内のみでの適正かどうかの検討、評価では十分でなく対策や計画が立てにくいように感じる。
147	実現 I	内海委員	意見	取組方針 2 について。区のHP他、各施設のHPについて人気投票を行って比較、競争を促し内容及び閲覧率の向上を図ってはどうか。
148	実現 I	内海委員	意見	取組方針 2 について。区やその事業についての過去、現在、将来に関わるクイズを区報等に掲載し、区民の区や行政への関心や閲覧率を高めてはどうか。
107	実現 I	三宅委員	意見	江東区の区報は、読み易く、区のイベントがタイムリーに提供されるので非常に良い。有明地区は当初区報が配られていなかったが、数年前に配布の対象になり、区の取り組みがよく理解できるようになった。ただし、紙面では限られた情報しか伝わらないため、重要な情報は区報の記事にQRコードなどを記載し、詳細情報はWeb、VRやARなどで提供することも検討していただきたい。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
108	実現Ⅰ	三宅委員	意見	長期計画の中に子供に喜ばれるようなやわらかな取組があっても良いのではないかと。ゆるキャラを住民とのコミュニケーションに活用している自治体は多数ある。「ことみちゃん」を介した江東区と区民のコミュニケーションについて可能であれば検討していただきたい。
124	実現Ⅰ	森委員	意見	「官民連携」における企業の位置付けについて意見を申し上げます。取組目標の書き出しに「区民、NPO、ボランティア、事業者等地域の多様な主体」とあるように、区内在住企業の存在感が薄いように感じます。企業を（区からの委託を受けた）「事業者」としてのみ捉えるのではなく、企業市民的な存在として認識し、その活力を引き出し区政に貢献していただくという考え方で、CSR活動の呼びかけや協働事業提案制度参画の働きかけを積極的に行っていくと良いのではないかと思います。
132	実現Ⅰ	吉武委員	意見	取組方針は、1で開かれた区政（あるいは可視化、見える化）、それを土台にして、2で区民参画、3で協働とネットワーク、という項目立てをするのが良いのではないかと思います。その順番に項目立てすることで、区の考え方がより説得力ある形で伝わるように思います。
98	実現Ⅱ	植田委員	意見	評価結果を活用し、効率的で効果的な区政運営ができるような仕組みづくりを定着させていくという視点をより明確にしていく必要があるのではないかと。今のはやりの言葉で言えば、EBPMであるが、そのような言葉を使わないにしても、外部評価をするということだけでなく、評価を行い、その結果を活用して、施策の立案を行って効率的な区政運営を行うという方向性を示してほしい
99	実現Ⅱ	植田委員	意見	AIなどを活用した行政の効率化を図ることが、区職員の役割変容をもたらすことになるので、区職員の役割は何か、そしてその役割を遂行するために必要な能力は何か、そしてそれをどのようにつけさせていくのかという視点から、職員の育成を考えてほしい。
150	実現Ⅱ	内海委員	意見	新規・レベルアップ・見直し・廃止事業数について。改修等については「新規」とせず「追加」とし、「新規」は全く新しく実施される事業にのみ該当させるべきと思う。
151	実現Ⅱ	内海委員	意見	取組方針1について。業務委託、指定管理者による日々の運営、管理について、実態把握が適切にされているか。 区施設において、区民のやむを得ない事情に対し威圧的な対応をしたり、公園のトイレ清掃においてタバコを吸いながら作業をしている等が見受けられ、区施設に携わる人材、事業者への適正な評価や指導が十分でないように感じる。
152	実現Ⅱ	内海委員	意見	取組方針2について。病院や自治体において手書き書類のデータベース化の導入が進んでいたり、様式がまちまちな請求書をスキャナーに読み込ませ、項目を自動的に振り分けるソフトウェアロボットによる時間短縮も可能になっているようだが、業務の効率化、労働時間の削減、機械にできるものは機械に任せ、機械ではできない付加価値の高い仕事に職員等が専念できるよう導入してはどうか。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
153	実現Ⅱ	内海委員	意見	<p>取組方針5について。今長期計画策定にあたっては、職員による「意欲・スピード・思いやり」「区民と同じ視点」「他の自治体にはない区政運営」という目標、意識を持った政策がされているかの自己点検、政策や行政運営についての知識、能力が発揮されているのか疑問を感じた。</p> <p>まずは政策にあたっての庁内統一した注意点、ポイント、チェック項目を作成、共有し、スピード化、効率化を図ってはどうか。</p> <p>江東区の現状や展望、課題に向けた、これからの区民ニーズに対応できるような的確な研修、育成がされることを期待したい。</p>
133	実現Ⅱ	吉武委員	意見	<p>取組方針の項目立てを、明確な考え方やストーリーに基づいて整理し直してほしい。1の中に外部評価の記述があるが、むしろ実現1の開かれた区政の中に含めるべきではないか。1で書くべきは、真に区が行うべき業務を明確にすること、業務にメリハリをつけながら、アウトソースした方が良いものは積極的にアウトソースすることなどを書き込んだらどうか。2を効率化とし、その中にAIやRPAなどITの高度利用を含め、3に行政サービスの質のさらなる向上、4にそれらを担う職員の育成、という順でまとめたらどうか。現在3でまとめている公有財産は、財政に関わる面が大きく、むしろ実現3に移したらどうか。</p>
100	実現Ⅲ	植田委員	意見	<p>持続可能な財政基盤の構築による安定的で、持続可能な区政運営という視点を入れてもよいのではないかと。もう少し、これから先の10年の新しい時代を見越した視点をいれてほしい。</p>
154	実現Ⅲ	内海委員	意見	<p>江東区の「ふるさと納税」が他自治体とは違い、目的化されているという方向性は素晴らしく魅力的と思う。このような江東区独自の発想に共感してもらい、活かすことで、区民、区外へのアピール、財源の確保、事業の発掘、発展に繋がる等、多様な効果、可能性が考えられるのではないかと。</p> <p>区民等の意見も取り入れ、募集を行う等、各分野ごとに十分な活用を検討すべきと思う。</p> <p>起業、産官学民連携への取組み、障害者や子育て、介護世代に向けた事業、商品、システム開発への支援等、長期的、全国的、世界的視野を持った事業の試み、挑戦に対する立ち上げ当初の短期的な支援についてでもよいように思う。</p>